



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／草野裕美子 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事
吉岡 康行 広島県教育委員会事務局教育部生涯学習課 主任社会教育主事

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「笑わせたいわ笑学校」の基本理念と社会発信のための地域実践
～「話し方教室」から「笑いを基点とした人間関係の創造」へ～ 13:35~14:05

マックビーン 光子(大分県大分市) 笑わせたいわ笑学校 事務局

平成24年に「話し方教室」の卒業生が上記「笑学校」を設立した。活動の大目標は、「笑い」を基点とし、無縁社会を突破する人間関係の創造である。中目標・小目標は、活動を通して、「元気になること・元気にすること」、「話し方研修の続行」、「会員発表による社会発信」、「講師になるための独自教育実習」である。笑学校では、「会員の研修」と「学びの成果を地域活動に還元」することを同時平行的に進めることを目的としているので、活動の大半は一般公開にして、学習機会を提供し、人々の参加を呼びかけている。それゆえ、定例的に、年3回の「公開発表会」、年1回の「招聘講師による勉強会」、「元気になるワークショップ」などを開催している。これらの準備過程こそが会員相互の研修であり、「会員講師」の養成課程であり、公開する活動は、笑学校が基本理念とする「笑い」・「感動」・「学び」の社会発信である。

2 プールが育んだ地域の伝統・人々の絆
～「はやぶさプール祭り」44年の軌跡～ 14:10~14:40

西村 昭二(鳥取県八頭町) 八頭町隼地区公民館 館長

隼地区には50mの公認プールがある。プールを活用した児童の体力向上は、学校はもちろん地域の教育目標となり、水泳大会での輝かしい実績も積み上げて来た。プールは地域のレクリエーションの場となり、やがて「祭り広場」の機能を果たすようになった。毎年お盆には、隼地区公民館が主催する地域総出のプール祭りが開催される。実行委員会も地域総出の手づくり、予算の拠出も地域総出である。お盆に帰省する人々と地域を守る人々の絆を繋いで既に44年もの歳月が流れた。4年後には小学校が統合されて、隼小学校は消滅する。プール祭りは50周年を迎えることができるか、地域に突きつけられた課題への挑戦である。

ティータイム 14:40~15:05

3 「幻」の淡水魚「アカザ」が町の自然を守る
～「アカザ」を守ることで川を守り、川を守る活動で子どもたちが育ち、彼らはやがて未来のふるさとを守る～ 15:05~15:35

武貞 誉裕(福岡県添田町) アカザを守る会 代表

添田町には幻の淡水魚と呼ばれる「アカザ」が生息している。清流にしか住めないアカザは今では「絶滅危惧種」に指定されるまでに減少している。平成8年から河川の淡水魚調査を続けてきたが、本格的に「アカザを守る会」を結成したのは、平成24年である。活動を始めてすぐ分かることであるが、アカザを守ることは、水質を守ることであり、ふるさとの川を守ることである。それゆえ、町の河川の魚調査を行い、「添田町お魚マップ」を作成する傍ら、河川のゴミを拾い、川遊びや観察会を企画して子どもたちを川に触れさせることに力を入れた。未来のふるさととは子どもたちが守る。その子どもたちも自然に触れなければ自然の豊かさは分からない。「アカザを守る会」は、町行政と連携して、アカザを守りながら、青少年を育成し、青少年を育てながら、自然を守るというように、魚を起点とした地域活性化運動を展開している。

4 行政サービス機能を代替し、住民自らが地域課題の実働組織となる
～中山間地域の自立への挑戦～ 15:40~16:10

中原 英樹(山口県長門市) NPO法人ゆうゆうグリーン俵山 理事長

名湯の町俵山は、豊かな歴史と自然資源を有しながら、その地理的状況から少子高齢社会が生まれ出す日本の最先端課題と向き合わざるを得ない。交通弱者、自立困難な高齢者、地域の雇用能力の貧困など、従来の行政依存では、もはや地域も、住民の暮らしも成り立って行かない。それゆえ、平成21年、「自らのまちは、自らの手で」をモットーに住民自身による自衛の活動を開始した。地域再生を目標としたNPOを立ち上げ、従来の行政サービスの中から福祉、教育、交通などの事業を次々と受託し、施設の指定管理、配食、地域交通の運営などを手がけている。住民で構成するNPOは近隣都市部に対して1100年の歴史を持つ温泉や自然資源の豊かさを発信しながら、地域課題解決のための実働組織として住民の自助・共助のネットワークを築き、新しい産業の創出に取り組んでいる。